

國史學

第 242 号

講演録

- 明朝の成立と「日本国王」号—大西信行の批判に接して—… 村井 章介 1
 近世山村史の可能性—上州山中領からの発信— …… 佐藤 孝之 25

論文

- 近代移行期の水戸偕楽園における奥向の活動について
 —奥女中安島氏立子著「好文亭日記」より— …… 村上 瑞木 53

研究ノート

- 日本古代国家形成史の諸論点
 —吉村武彦氏『日本古代国家形成史の研究』を読んで— …… 関根 淳 101
 信長側近・松井友閑の京都屋敷をめぐる …… 竹本 千鶴 115

資料紹介

- 新羅海印寺妙吉祥塔誌群の釈読 …… 山崎 雅稔 133

書評と紹介

- 徳川林政史研究所・徳川美術館編
 『徳川林政史研究所開設一〇〇周年記念 将軍と尾張徳川家—政と儀礼—』
 …… 松本日菜子 153

報告

- 令和五年度 国史学会総会 …… 157
 大会・例会報告要旨 …… 165

編集後記

『国史学』第二四二号をお届けします。今回は講演録二報を掲載しました。昨年度に弊会の記念講演をお願いしました村井章介先生・佐藤孝之先生にその時の講演に基づき活字化していただいたものです。当該分野の第一人者というべきお二人の論稿は重厚で裨益されます。

論文一報は戦後研究史の薄い幕末水戸藩に関するもので、通常は文芸資料と目されるものを用いて歴史を論じています。講演録は日本という空間を相対化する視角を有するものでしたが、当該論文は歴史学を越境するものといつていいでしょう。空間や分野を越境する研究は近年の動向では顕著といつていいでしょう。

研究ノート二報のうち一報は吉村武彦氏の成果に拠りながら、古代国家形成におけるイデオロギー、官僚制、税制・軍制に迫ったものです。もう一報は織田信長の側近松井有閑の京都での屋敷、「信長政権の迎賓館」について考察したものです。

資料紹介の一報は八九五年に作製された慶尚南道の寺院の石塔に納められた塔誌を紹介したものです。大変難解な資料が緻密に考察されています。

書評と紹介一報は江戸時代の御三家の一つ尾張藩に関する展示図録を紹介したものです。今号に掲載された論稿をまとめてみると、時代は古代から幕末まで、地域も日本はもとより朝鮮・中国まで広範囲に及びます。バラエティの富んだ学

問的営為をお楽しみ下さい。

さて二〇二〇年初頭から猛威を振るっていた、さしもの新型コロナウイルスもやっと五類になり、どこの学会においても対面に戻りつつあります。ただZoomなどのオンラインシステムは、有効に使用すれば学会への参加が増し、会員の利益になることも事実です。単純に過去に戻ればいいということにはなりません。ただ対面とオンラインのハイブリッド方式は、非常に手間がかかるので、この点も考慮する必要があります。国史学会としてはしばらくは試行錯誤しながら、最も有効な方式を模索することになりそうです。(吉)

国史学 第二四二号

令和六年七月三十日 発行

編集発行 国史学会

会長 根岸 茂夫

〒150-8440 東京都渋谷区東四一〇―二八

国學院大學史学科気付

☎ 03-5466-0246

振替東京〇〇一七〇―七―三八九二二

(会費 年額四〇〇〇円)

印刷所

共立印刷株式会社

〒166-0012 東京都杉並区和田一―一四―二三

☎ 03-33382-1211

当会に無断で本誌転載および、複写頒布あるいは公開のデータベース等にのせることを禁じます。